

神門福祉会 平成26年度事業報告

1. 理事会

年間9回開催

5月26日—平成24年度事業報告、本部会計・施設会計決算報告、監査報告について
サテライト型小規模多機能型居宅介護及び住宅型有料老人ホームについて

6月25日—神門保育園改築について

7月29日—神門保育園改築について、建設予定地、設計について

9月 6日—神門保育園園舎建替用地取得について、就業規則の一部見直しについて
経理規程変更について、本部会計・施設会計第1回補正予算案について

10月10日—監査指摘事項の改善について

11月28日—神門保育園改築について、かんの里スプリンクラー設置について
施設会計第2回補正予算案について

2月 4日—神門保育園園舎改築に伴う土地取得契約と借入について

3月 3日—神門保育園園舎改築変更申請について、園長の定年制について、2保育園の
就業規則変更について

3月26日—神門保育園土地取得のための借入について、本部会計・施設会計第3回補正
予算案について、平成27年度事業計画について、平成27年度予算案につ
いて、保育園就業規則変更・定年退職再雇用者就業規則案について
役員報酬・役員費用弁償規程について、役員改選について

2. 役員等の改選

3月末で、任期満了となる。藤原理事が退任。後任に加藤禎三氏が承認される。後の理事・
監事は、重任する。

3. 経営状況

神門保育園は、0才児の入所が特に増えたことや入所率が118%だったことで
9,000,000円を園舎移転改築のために土地の購入資金に充てることができた。積立金
27,500,000円と借入金25,000,000円経常収入から9,000,000円で土地を確保した。神門
第Ⅱ保育園は、入所率は、119%であったが、0歳児の入所が前半なかったことや産休・
育休の職員が複数いたことから、人件費が膨らみ、厳しい状態であった。介護事業の方は、
特別養護老人ホームは稼働率もよく、他愛加算を算定できた為順調である。小規模多機能
については登録定員は高くなったが平均介護度が皿に低下し昨年より収入が減少した。グ
ループホームについてはほぼ当初予算通りに決算を迎えた。

4. その他

新会計については、2015年度の予算編成の時点で移行した。

神門保育園

1. 概況

平成26年度は、4月97名スタートし、予約や途中入所で3月には112名の園児数になった。

保育についてお互いに意見を言い合い、職員同士風通しの良い関係を作っていく事が出来るよう
になり、保育をする上でとても良かった。年長担任が、1人家庭の事情で7月末に退職したことで、
1人担任を皆でサポートすることになった。支援を必要とする子どもがいたが、皆で支え合い、保
育にあたった。また、年長の保護者が、とてもチームワークが良く、保育を進めるうえで、支えと
なった。卒園時に、保護者から「とても居心地の良いクラスだった」と言ってもらえたことは、大
きな喜びであった。

当園の保育方針として掲げている実体験を主にした保育やリズム運動についても職員が共通し
た考えで保育したことにより、年長児については、めざすこども像として掲げている5つのことは、
ほぼ達成できたように思う。他の年令の子ども達もそれぞれの年令を生きさせる保育をするため
に年令に合った要求、それぞれの子どもに合った要求についても職員会の中で討議し、今後も職員
全員で育てていこうということになった。

河南中学生の職場体験学習の受け入れや小中学生のボランティアの受け入れ、出雲西高校生の保
育実習や総合学習での受け入れを実施した。地域での縦の関係が希薄になって来ているので、小中

高生にとっても、保育園児にとっても良い経験であった。特に、保幼小連携での5年生と年長児との3回の交流で子どもたちにとっては、小学校に対して親近感が持てとても良い交流になったと思う。次年度も続けて行うとよいと思った。神戸川小学校のボランティア委員会が3回来園し、0・1・2才児と触れ合うこともとても楽しみにしてくれたことは、うれしいことである。また、神門地区の幼稚園・保育園の年3回の交流も子どもたちにとっては、楽しみの一つになり、小学校就学に向けて親しくなった友だちがいることは、不安材料が一つ減るので、心強いことと思う。

また、今年度は、保幼小連携として職員交流で神戸川小学校の教員に、保育園で半日保育体験をしてもらったが、幼児期の子どもの事を知ってもらえて、連携をとるのにとっても良かったと思う。今後とも是非続けたいと思う。

特別保育事業としては、延長保育(月平均6名)、一時保育(述べ利用数207名)、地域活動事業を実施した。

保護者に対しては、講演会(規則正しい生活リズムについて、子どもとの関わりについて)の開催、年2～3回程度のクラス懇談会、一日体験保育、試食会などを実施して人間の基礎である乳幼児期の子育ての大切さを伝えていった。とても熱心で理解と協力を得られた保護者も多数あるが、無関心でなかなか理解を得られない保護者もある。コミュニケーションの取りにくい保護者もいることから毎日声掛けをしたり、保護者自身を誉めたり認めたりすることで信頼関係を作っていくようにした。今年度は、どのクラスも保護者同士の繋がりもよく、懇談会の出席も良かった。保育を進めていく上で、保護者の理解・協力は不可欠なものなので、今後も保護者との信頼関係を築いていきながら、地域との関わりも大切に、子どもの幸せの為に保育をしていかなければならないと思う。また、月1回の職員会とチーフ会で毎月のそれぞれのクラスの保育や気になる子どものことや保育していく上での悩みなどを話し合うことにより、職員が共通理解することが出来た。保育を深めていく上でお互いに意見を言い合い、職員同士連携をしっかりと持つことが出来たと思う。

一方、職員教育については、第Ⅱ保育園の職員と一緒に園内研修会を5回開催し、我が園の方針・保育理念を新しい職員も理解する上ではとても良かった。県保育協議会の研究発表に向けて、講師を招いて学習会をしたり、エピソード記述を書いてそのことについて皆で意見を言い合ったり、出雲市保育園協議会の研修、県や民間の研修会にも参加して、職員の資質向上に努めた。これからも引き続き、計画的に研修をしていきたい。また、自主的に自己研鑽に努めなければならないが、若い職員が積極的に研修に参加している。

園舎の老朽化に伴う移転改築について、施設整備の協議書を提出済み。3月30日に移転先の土地をJAしまねから2811.93㎡、高瀬達郎氏から517㎡を62,500,000円で取得した。

2. 定員 90名 入所児童 106名(月平均) 入所率118%
3. 職員数 29名 (臨時、パート職、嘱託医を含む)
(園長1、主任保育士1、保育士18、事務員1、看護師1、栄養士1、調理師2、調理員1、嘱託医3名)
4. 保育時間 午前7:00～午後6:00
午後6:00～1時間延長保育
5. 特別保育事業
 - ・延長保育事業 1時間延長 月平均6名 年間延べ人数1,426人
 - ・一時保育事業 年間延べ人数 74名
 - ・地域活動推進事業 異年齢児交流・世代間交流・食育推進・子育て力アップ
6. 地域支援事業
 - ・小中高生の保育体験受け入れ
 - ・講演会の案内
7. 保育設備
 - 土地 6892.25㎡ (3842.25㎡福祉会所有、他は、出雲市より1758㎡・板倉文子氏より1005㎡・石橋厚氏より287㎡借用)
 - 園舎 鉄骨造セメント瓦葺平屋建て652.45㎡
 - 備品 備品台帳記載の通り
8. 資金について
経常経費は、運営費収入・補助金・私的利用料収入・雑費で賄った。土地取得については、積

立預金 28,500,000 円を取崩し、9,000,000 円を今期運営費収入より、J Aしまねから 25,000,000 円の借入で賄った。

神門第Ⅱ保育園

1. 概況

平成 26 年度は、10 月以降に予約入所が集中していたため、年度当初は乳児が少なく、ゆったりとした保育ができたが、反面経営的には苦しいスタートであった。また、職員の中に、産休者、育休者が多く、年度の始めから代替となる職員を採用したために、人件費が膨らみ、年度の終わりまで苦しい状態は続いた。それと共に、新しく採用した職員との関わり方や、指導の難しさも感じた一年であった。

職員全体でみると、職員の研修に対する意識は高まりつつあり、積極的に研修に参加していた。中でも、次年度からスタートする『子ども子育て新制度』についての研修には、できるだけ参加するようにし、研修で得たことについては、職員間で情報の共有をするようにした。また、『子ども子育て新制度』については、保護者に向けても保護者役員会やクラス懇談会などの機会を使って知らせるようにした。平成 27 年度からの新制度については、まだ詳しく分からない部分も多いので、今後も機会あるごとに情報を得て、職員や保護者にも伝えていきたいと思っている。

保護者との関わりとしては、子どものささいな成長も共に喜び合うことのできる関係づくりを大切にしてきた。第 2 子以降の園児が占める割合が多いこともあり、保護者が保育園のことに興味を持ち、積極的に行事に参加したり、協力する姿が多くあった一年でもあった。

障害児保育支援事業として、障害児 1 名、発達促進児 1 名の受け入れをした。その子たちとの関係づくりから始め、約一年を掛けて馴染んできたように思う。またその子の存在が周りの子どもたちの心を育て、その子自身も集団の中で過ごすことで育っていったように感じる。今後も障害を持つ子の受け入れを続けていこうと思っている。

特別保育事業としては、延長保育事業（月平均 4 名）、一時保育事業（延べ利用数 278 名）、地域活動事業を実施した。異年齢児交流や、世代間交流を行い、慶人会の方たちや、地域の方たちを保育園に招き交流することができた。

地域との交流として、例年通り河南中学校生の職場体験学習の受け入れや、出雲西高校生の総合学習での受け入れを実施した。中でも、小学校就学に向けてスムーズにということ、保幼小連携については、とても充実してできた。保育園に小学 5 年生を年 3 回招いて交流をしたり、保育園 2 園と幼稚園が年 5 回交流をする機会を持った。また、子どもたちのかかわりばかりではなく、職員同士の交流として、初めて小学校の教員を保育園に招き、半日を一緒に過ごしてもらった。このことで、小学校との連携はより深まったように感じている。各々の園や学校だけでなく、地区の子どもたちと一緒に育てていくという意識に変わってきていることを感じる。今後もぜひ続けていきたい。

2. 定員 70 名 入所児童 83 名（月平均） 入所率 119%

3. 職員数 26 名（臨時、パート職を含む）
（園長 1、主任保育士 1、保育士 17、看護師 1
栄養士 2、調理員 1、嘱託医 3）

4. 保育時間 午前 7：00～午後 6：00
午後 6：00～1 時間延長保育

5. 特別保育事業

・延長保育	1 時間延長保育	月平均 4 名
・一時保育	年間延べ利用数	278 名
・地域活動事業	異年齢児交流事業・世代間交流事業	

6. 障害児保育支援事業

- ・ 障害児 1名（言語発達遅滞、ADL遅滞）
- ・ 発達促進児 1名（精神発達遅滞、言語・構音遅滞）

7. 地域支援事業

- ・ 小中高生の保育体験受け入れ
- ・ 講演会・人形劇等上演の案内

8. 保育設備

- 土地 2558.45㎡
- 園舎 木造平屋建て 599.23㎡
- 備品 備品台帳記載の通り

9. 資金について

経常経費は、運営費収入と補助金で賄った。独立行政法人福祉医療機構からの借入金は元金を運営費で、利子分は島根県及び出雲市からの補助金で賄った。島根中央信金からの借入金の元金及び利子分は、運営費で賄った。

グループホームかんの里

1. 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	9	9	9	9	9	9	\
退去	0	0	0	0	0	0	
新規入居	0	0	0	0	0	0	
定員（延）	270	279	270	279	279	270	
実績（延）	250	279	270	279	279	270	
利用率	92.59	100	100	100	100	100	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
実人数	9	9	9	9	9	9	
退去	0	0	0	0	0	0	0
新規入居	0	0	0	0	0	0	0
定員（延）	279	270	279	279	252	279	3,285
実績（延）	279	267	264	279	252	279	3,257
利用率	100	98.89	94.62	100	100	100	99.14

*平均介護度=3.22（年度末）←3.00（年度初）

利用者の状態は重度化傾向にあり、食事の介助や水分摂取への配慮、身体機能低下予防に向けた取り組みなどを日々行っていかなければならない状況にある。昨年度もからの施設外へ一人で出ていく方の対応も年度末になって激しくなっており改善に向けた対応が必要である。

2. 収支状況

介護保険収入は前年度に対し収入が80万円減じ、稼働率は0.8低下した。今年度当初は小規模多機能型居宅介護より繰り入れを計画したが、収入が当初予算を下回り特別養護老人ホームからの繰り入れに変更し実施した。

支出では産前・産後休業、育児休業の職員補充が出来ず、12月に小規模多機能から1名異動、3月に1名採用した。これらにより人件費は前年よりも若干低くなった。また給食費、水道光熱費は昨年度にとほぼ同水準となっているが、外的な要因による変動が大きい為支出を抑える努力はこれからも必要である。

3. 職員研修

職員個々に「私の目標」を設定させ、それに合わせて外部研修への派遣を行った。内部研修は職員間に「忙しい」、「大変だ」の意識が定着しており各研修の担当者が研修準備に時間を取らなかった。促しを行って大多数の研修を実施できた。

○ 外部研修

- 5/18 第1回山陰在宅医療推進フォーラム 山陰プレ大会 これからの地域包括ケア
～いま私たちにできること～ 1名
- 7/29 採用活動向上支援セミナー 1名
- 1/26 介護保険制度改正から施設運営を学ぶセミナー 1名
- 2/3 改正パートタイマー労働法説明会 1名
- 2/15～2/17 人事考課セミナー 1名

○ 内部研修

- 4/17 救急法
- 5/20 看取り
- 7/10 感染症対策
- 8/11 認知症の理解
- 9/23 病気の早期発見とその対応
- 12/1 個人情報の保護
- 2/6 プライバシーの保護
- 3/3 かんの里研究発表会

4 行事及び地域交流

毎月季節の行事や歳時記にあわせた季節感のある行事、利用者の誕生日に合わせた誕生日会を開催した。

4/2～4/11 花見

- 4/11 外食
- 5/2 八十八夜のお茶会
- 5/11 母の日
- 6/5～6/6 菖蒲湯
- 6/10 梅サワー作り
- 6/13 遠足
- 7/3 七夕会
- 7/19 草取りボランティア
- 7/28 花火
- 7/29 土用の丑の日
- 8/2 墓参り
- 8/2 沖北ふれあい祭り
- 8/2 喫茶外出
- 8/23 納涼祭
- 8/30 神戸川児童クラブとの交流会
- 9/11 敬老会
- 9/16～9/21 花の郷外出
- 9/26 墓参り
- 10/3 誕生日外出
- 10/2 誕生日外出
- 10/18 収穫祭
- 10/15 吊るし柿作り
- 11/8 文化祭
- 11/30 誕生日外出
- 12/8 クリスマス会
- 12/19 そば打ち
- 12/22～12/23 ゆず湯・冬至メニュー
- 12/27 地域の子どものクリスマス会

- 1/1 オードブルで新年
- 1/11 とんどさん
- 1/17 新年会
- 2/3 節分
- 2/19 新年のお茶会（旧正月）
- 2/28 誕生日外出
- 3/5 ひな祭り
- 3/14 出前喫茶

5. 理念に基づいたケアの提供

前年度と同様に、生活リズムを大きく変えずに毎日、それぞれの利用者が役割をもって日々の生活を送って頂くように努めた。入居者が漸次的に重度化するなか、前年度と同様の生活がなかなかできなくなってきたが、一人一人に合わせた対応に努めた。家族の面会も多い方少ない方とあるが、出来るだけ家族が施設から離れないように、誕生日、行事、お小遣いの補充など何かある度に家族に協力を呼びかけ、赴いて頂けるように努めた。誕生日には利用者本人が生きたい所へ家族と職員が付き添って外出することができた。

納涼祭は地域の B 型サロンとの共催となり事業所が地域へ貢献する一つの役割を果たした。ボランティアの受け入れや地域行事への参加も行い地域で暮らし、地域と支えあうことも定着してきた。

6. 居宅サービス計画

24 時間シートを用いて居宅サービス計画を補完している。純粹なユニットケアができない職員体制であるが、その方が望む、その方らしい生活に近づき、普段離れている家族も生活を見てとれる様になった。しかし職員間にはスキルの大きな差があるため全体のレベルアップが必要である。

7. 職員の体制

二名の職員が出産に伴い産前産後休暇及び育児休業を取得した。代替職員の確保が計画どおりできず、12 月末に小規模多機能から 1 名の職員を異動し補充した。残りの 1 名は 3 月末に補充した。しかし同時に 2 名の職員が入れ替わったのと同等の状況にあり介護力及び質の低下が起こっている。質の高いサービスを提供するための 24 時間シートであるが、利用者の状態は重度化している要因も重なって職員の力量とミスマッチの状況である。

8. 次年度に向けた課題

重度化に対応できるよう職員育成を行わなければならない。ただ日常のお手伝いができるのではなく、理念に基づき、専門知識と専門的な技術に裏付けられた介護ができるように、内部研修と外部研修を活用することが必要である。

食材料費と水道光熱費の上昇など外部要因による支出の増加があるが、コスト意識を持ち節約に努めていく必要がある。

小規模多機能型居宅介護かんの里

1. 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
登録者	21	24	23	25	24	25	
増	1	3	0	2	0	1	
減	0	1	0	1	0	0	
通い	366	375	396	427	385	405	
訪問	414	500	421	525	517	516	
宿泊	160	156	187	194	172	146	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者	25	25	25	23	24	23	
増	0	0	1	0	1	0	9
減	0	1	2	0	1	0	6
通い	466	382	363	411	380	449	4,805

訪問	511	484	472	459	474	508	5,801			
宿泊	183	151	140	166	159	170	1,984			
	自宅	病院	特養 ホーム	老健 施設	GH	小規模	特定 施設	サ付 住宅	死亡	その他
登録前の 状況	7	1	0	0	0	1	0	0		0
登録解除 後の状況	0	1	0	3	1	0	0	0	1	0

平均介護度・・・2.43（年度当初）→2.09（年度末）

登録者平均・・・23.92人／月（22.33）

通い平均・・・400.41人／月（400）、13.16人／日（13.15）

訪問平均・・・483.42人／月（286.33）、15.89人／日（8.80）

宿泊平均・・・165.33人／月（197.66）、5.44人／日（5.87）

（ ）内は前年度実績

登録者平均は 23.92 人と昨年度に対し 1.59 人増となった。登録者数も昨年度末からの影響あり年度当初は 21 名であったがその後は 23 名以上の登録者を維持することができた。しかしその内容は夏季及び冬季の入院があり稼働者数は登録者よりも少ない。ピークには同時に 4 名の方が入院している時期もあった。また、平均介護度はさらに低下しているものの、訪問による支援がなければ自宅での生活が維持できない利用者が増えている。

通いの実績は前年度と殆ど差異がないが、訪問が増え宿泊が減少している。居宅サービスとしての本来の役割が実績として表れている。

2. 収支

平成 24 年度及び平成 25 年度の収支が悪かったことを受け、昨年度は常勤看護師の退職後の補充を行わず、育児休業終了後復帰された職員が退職された後の補充も行わずに人件費割合を減らす努力をした。さらにグループホームの産前産後休暇及び育児休業の職員 2 名分の補充が出来なかったことにより配置転換をして、さらに職員数の圧縮を行った。

年度当初の介護度より予算を編成していたが、実績の通り利用者が増え、訪問実績も回数を伸ばしたが平均介護度が低下しており収入は下方修正を行っている。月当たりの平均登録者は 1.6 人増えているが、介護保険収入は昨年よりも 50 万円の減である。また年度当初には計画していなかったスプリンクラーの設置工事に伴い補助金と自己資金を利用して整備した。

これらによって当期単年で 400 万円の黒字となった。

3. 職員研修

職員個々に「私の目標」を設定させ、それに合わせて外部研修への派遣を行った。内部研修は職員間に「忙しい」、「大変だ」の意識は未だ残っているが、予定から遅れながらも準備をして実施できた。しかし事業の目的や利用者個々の援助方針を把握していない職員が居り、職員間の摩擦の原因ともなっている。職員の意欲やモラルを維持するために、職員会議やケアカンファレンスを通じて原則と伝えるようにしておりこれらの対策も引き続き必要である。

○ 外部研修

5／20 これからの地域包括ケア 1名

5／20 平成26年度安全運転管理者等講習会 1名

6／8 摂食嚥下障害とそのリハビリにつなげる口腔ケア 1名

6／8 明日からできる効果的な口腔ケア 1名

10／4～5 島根県介護支援専門員協会研究大会 2名

11／1 サービス担当者会議・記録・モニタリングの押さえどころ 2名

1／16～17 全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会 全国大会 IN 藤沢 2名

1／23 来年度法改正に向けて事業者間の連携強化研修 2名

1／26 平成26年度介護保険制度改正から施設運営を学ぶセミナー 1名

2／3 改正パートタイマー労働法説明会 1名

2／16～17 人事考課セミナー 1名

- 3/21 使ってみよう課題整理総括表 1名
- 3/26 介護職員による痰の吸引に関する実地研修2号 1名

合計15名

○ 内部研修

- 4/17 救急法について
- 5/20 看取りについて
- 7/10 感染症対策
- 8/11 認知症の理解
- 9/23 病気の早期発見とその対応
- 10/8 避難訓練（夜間想定）
- 12/1 個人情報保護・プライバシーの保護について
- 2/6 プライバシーの保護について
- 2/19 介護技術（見守り、身体介護、医行為）について
- 3/3 かんの里研究発表会
- 3/30 事故対策 転倒・転落について
- 3/30 避難訓練

○ 会議等

- 職員会議・・・毎月実施
- ケアカンファレンス・・・毎月実施

4. 行事

毎月季節の行事や歳時記にあわせた季節感のある行事、利用者の誕生日に合わせた誕生日会を開催した。行事に家族が参加されることは減ったが母の日、父の日、敬老の日には家族の協力を得ながら行った。また神門保育園、神門第Ⅱ保育園、神門幼稚園、そばの会、神門地区社会福祉協議会との連携による行事も実施した。それぞれの行事で世代間交流や地域交流となり、利用者も大変喜んでおられた。

5. 理念に基づいたケアの実施

「本人支援」、「継続的支援」、「地域で暮らす」、「地域で支えあう」の地域密着型サービスの理念に基づき、「尊厳の保障」、「家庭的な雰囲気」、「自立支援」、「絆」によって居宅介護支援及びサービス提供を行った。

利用者個々の支援方針やその方の望む生活の実現に向けたケアの提供が職員全体が取り組めるようになるためにさらに内部研修や意見交換の場を増やす必要がある。

6. 居宅サービス計画

居宅サービス計画書の作成は各担当者が随時変更を行ってきた。定期の訪問も実施出来ている。

今年度は課題整理票の導入と小規模多機能型居宅介護計画の整備に努めた。課題整理票を用いたカンファレンスを行ってきたが介護職員の発言が少ない。

7. 職員体制

専従看護師の退職や介護職員の退職、配置換え等を行い人件費率をコントロールに努めた。訪問が多い為大きな削減は出来ないため、人件費の大きな削減にはつながらなかった。訪問が多い分、職員に余裕がなく、うっかりミスが多い問題もある。

8. 次年度への課題

次年度は介護保険制度改正により介護報酬が大幅に削減される。小規模多機能としてどうあるべきか、職員全体が理解して訪問と通いの提供方法を検討していく必要がある。訪問を重要な機能として位置づけ、職員の配置には短時間労働の活用などを強化する必要がある。

内部研修を通して、ケアカンファレンスの意義を職員が理解し、サービスに生かすようにしなければならない。

平均介護度が低下していき、職員数の圧縮を行っているが、加算等を算定する為には必要な職員数を割り込むことは出来ない。介護度低下の影響で人件費率が高くなるため、登録者を増やすこと

で本年度と同等の運営を維持しなければならない。

特別養護老人ホームかんの里

1. 入居実績と介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
定員	29						
退去	1	0	1	0	1	1	
新規入居者	1	0	1	0	1	0	
定員(延)	870	899	870	899	899	870	
実績	858	899	862	899	847	839	
入居率	98.16	100	99.08	100	94.21	96.43	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定員	29						
退去	1	1	0	0	2	2	10
新規入居者	2	0	1	0	0	2	8
定員(延)	899	870	899	899	812	899	10,585
実績	881	853	851	859	770	831	10,249
入居率	97.99	98.04	94.66	95.55	94.82	92.43	96.82

入居者要介護度人数

要介護3	7
要介護4	10
要介護5	10
平均	4.07

* 平成27年4月末

* 要介護度全国平均約3.8

入居率を97%に目標設定していましたが、特に12月から3月にかけて、入院及び退去者が集中し入居率低下の要因になりました。また全般的に身体機能の低下や認知症の進行により要介護度が上昇し、入居者の状態も重度化の傾向にあります。

2. 収支状況

当初予算は入居率97%で設定していましたが、結果的に平均96.82%（マイナス0.18%）でした。しかし要介護度の上昇及び職員退職に伴う速やかな職員補充が出来なかったことによる人件費の支出減により収支差額は約688万円の黒字を計上しました。

3. 研修

専門職員としての知識、専門技術習得のため以下の研修に参加及び実施しました。

【外部研修】

研修名	研修年月	参加人数	場所
第1回島根地区口腔ケア実践講習会	H26.6	1	出雲市
平成26年度島根県老人福祉施設協議会第一回総会及び研修会	H26.6	1	松江市
第18回島根認知症ケア研究会	H26.6	1	松江市
平成26年度島根県老人福祉施設協議会介護食研修会	H26.6	1	松江市
痰の吸引指導者講習	H26.7	1	大田市
平成26年度島根県老人福祉施設協議会看護職員研修会	H26.7	1	出雲市
痰の吸引研修	H26.7~8	2	江津市
介護・看護専門職のためのターミナルケア	H26.8	1	出雲市
援助技術・介護予防セミナー	H26.8	2	出雲市
平成26年度ユニットリーダー研修(前期)	H26.9	1	岡山市

島根県老人福祉施設協議会研修会「リスクマネジメント・接遇・記録の書き方」	H26.9	1	出雲市
平成 26 年度ユニットリーダー実地研修（前期）	H26.9 ～ 10	1	鳥取県日南町
第 25 回島根県老人福祉施設協議会研修大会	H26.10	5	松江市
平成 26 年度社会福祉法人新会計基準移行処理研修会	H26.10	1	松江市
痰の吸引研修	H26.11～12	2	松江市
社会福祉事業従事者研修会	H26.11	1	出雲市
新会計基準研修	H26.11	1	松江市
平成 26 年度ユニットリーダー研修（後期）	H26.12	1	岡山市
新任職員育成担当者研修	H27.1	1	浜田市
介護保険制度改正と施設運営	H27.1	1	松江市
平成 26 年度ユニットリーダー実地研修（後期）	H27.1	1	鳥取県日南町
高齢者虐待の防止に係る研修会	H27.2	1	江津市
平成 26 年度島根県老人福祉施設協議会第二回総会及び研修会	H27.3	1	松江市
合計	23 回	30 名	

【内部研修】

研修会	研修年月	参加人数
AED 講習（1 回目）	H26.5	20
AED 講習（2 回目）	H26.5	14
嚥下について	H26.7	12
介護保険制度について（1 回目）	H26.10	11
介護保険制度について（2 回目）	H26.10	11
感染症について	H26.12	16
人権（同和）について（1 回目）	H27.1	13
人権（同和）について（2 回目）	H27.1	8
死生観について（1 回目）	H27.3	14
死生観について（2 回目）	H27.3	11
合計	10 回	130 名

【伝達研修】

講習名	研修年月	参加人数
介護記録について（1 回目）	H26.4	9
介護記録について（2 回目）	H26.4	8
介護記録について（3 回目）	H26.4	7
口腔ケア及び認知症ケアについて（1 回目）	H26.7	15
口腔ケア及び認知症ケアについて（2 回目）	H26.7	8
援助技術について（1 回目）	H26.9	12
援助技術について（2 回目）	H26.9	7
合計	7 回	66

【施設見学】

	研修年月	参加人数	場所
ユニットの設えについて	H26.7	3	大田市

合計	1回	3	
----	----	---	--

【研究発表会】

	研修年月	参加人数	場所
平成 26 年度個別ケア実践発表会	H26.11	4	大田市
平成 26 年度かんの里研究発表会	H27.3	12	出雲市
合計	2回	16	

【私の目標】

職員一人ひとりが業務目標を設定し、年間を通して目標達成の為に自己研鑽することにより、個々のレベルアップを図りました。

【資格取得】

平成 26 年度は 1 名が「介護福祉士」の資格を取得しました。

平成 26 年度は 4 名が「介護職員等による痰の吸引等」の資格を取得しました。

4. 事故について

平成 26 年度の施設での事故は以下の通りでした。

種類	件数
転倒	54
転落（ベッド）	3
ずり落ち（ベッド、ソファ、車椅子）	13
誤薬	20（うち 1 名受診）
薬の飲み忘れ、貼り忘れ	10
薬が落ちていた	19
外傷	35
創傷	5（うち 2 名受診）
打撲	3（うち 1 名受診）
無断外出	4
異食	2
一人で歩いている	1
一人でトイレに座っている	2
一人で這っている	4
食事に異物混入	1
茶碗の破損（個人持ち）	2
合計	178

5. 入居者の権利擁護

出雲市介護相談員（隔月、年 6 回訪問）に入居者の話や意見を聞いてもらうことにより、不安や不満の解消を図りました。また施設に対する意見を聴取しサービスの向上に努めました。

6. 苦情

入居者及び家族からの苦情はありませんでした。

7. 身体拘束

1 名の入居者が覚醒中に、掻痒感（原因不明）のため身体を掻かれるため、表皮剥離がひどくなり両手にミトンを装着しています。病院受診、薬の塗布を継続していますが、改善が見られないため身体拘束廃止委員会で検討し、両手にミトンを装着し表皮剥離を防いでいます。家族にはその都度状況を報告しています。

8. 非常災害時の対応

火災発生等の非常時に迅速、適正に対応するため、出雲西消防署の指導により、火災報知機、火災通報装置の取り扱い、初期消火、避難誘導訓練を2回、また消火器を使った消火訓練を2回実施しました。

種類	
総合防災訓練 1 回目	H26.10.3
消火訓練	H26.10.3
総合防災訓練 2 回目 (夜間想定訓練)	H27.3.23
消火訓練	H27.3.23

9. ユニット行事、ボランティア

入居者の生活にメリハリをつけるため、ユニットを中心とした以下の行事及びボランティアによる行事を行いました。

外出 (真幸ヶ丘公園、斐川公園、しまね花の郷、出雲大社、島根ワイナリー、ゆめタウン、立久恵峡、島根県立古代出雲歴史博物館、そばまつり等)、誕生会、ドライブ、ふるさと訪問、外食、七夕祭り、夏祭り、納涼祭、敬老会、運動会、クリスマス会、忘年会、節分、おやつ作り、干し大根作り、買い物、地域のとんどさんへの参加等
舞踊 (お日さまグループ)、ハーモニカ演奏

10. 諸会議、委員会

施設の円滑な運営に資するため以下の会議、委員会を開催しました。

企画会議 (12回)、リーダー会議 (12回)、ユニット会議 (12回)、運営推進会議 (4回)、入所検討委員会 (5回)、食事検討委員会 (12回)、厨房スタッフ会議 (12回)、防災対策会議 (2回)、身体拘束廃止・虐待防止委員会 (12回)、事故防止委員会 (12回)、研修委員会 (11回)、広報委員会 (8回)

